

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 1年生

1 日常の学習状況について

- (1) 言語活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- (2) 小学校における外国語の教科化に伴い、話す活動において、意欲的に取り組むことができる生徒が多い。
- (3) パフォーマンステストは特に意欲的に取り組むことができた。
- (4) 「書くこと」に課題がある生徒が多い。

2 期末考査等の結果を踏まえて

期末考査は80点以上の生徒が46%、70点以上の生徒が63%にとどまった。新出文法事項・単語の定着への課題が見られる。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能：

思考・判断・表現を支えるための知識がまだ不十分な生徒が見られる。与えられた話題について、相手と話してやりとりを行うことは慣れている生徒が多く、新出語句や授業で扱った文構造を話すことはできるが、書くことができない生徒が多くみられる。多少の誤用はあるが概ねコミュニケーションをとる上で、相手に意思を伝えることはできている。反面、英文を書くことについては文構造の間違いを修正できていないことが多い。

- (2) 思考・判断・表現：

英語を聞いたり、読んだりして目的に応じて必要な情報をとらえることに対しては得意な生徒が多い。

4 教科の課題

- (1) 学習面

- ・既習内容の定着をはかり、語彙力や表現力の向上させるために家庭学習の習慣を確立する必要がある。

- (2) 指導面

- ・発話においては正確な英語の発音やリズム、そしてイントネーションに重点を置いて、教師の後に繰り返しリーディングの練習をすることが必要である。書くことにおいては、既出の文法や表現を自分のことに置き換えて正確に書く機会を増やす。
- ・読解については、自分の力で大まかに理解したり、精読したりする時間を確保する。
- ・新出文法事項を扱うときに既習事項と関連させて扱い、文法知識を混同させないように指導する。

5 授業改善について

(1) 学習面

授業では冒頭にめあての確認をし、授業で何を学ぶかを意識させる。授業の終わりにそのめあてに対して自分ができたことや考えたことをまとめ、ふりかえりの時間を設ける。また表現活動においては、自分の考えを広げ、深めるためにさまざまなメディアに触れ、興味関心を広げ、身近な話題を英作文に生かせるようにする。

(2) 指導面

- ・本時のねらいと流れを明確にし、生徒のゴールを意識して授業を行う。
- ・生徒の書きたい、話したいという意欲をさらに引き出し、自分のことについて話す、与えられた課題での英作文を限られた時間の中で書く、自信をもって課題に向き合える力をつけられるようにする。
- ・リスニング能力向上のため、リスニング教材をや教科書を用いて、シャドーイング、ディクテーションなどを行い、繰り返し聞くことで、分かる、聞こえる力がつけられるようにする。
- ・長文読解では、出てきた単語から語彙を増やし、速く正確に読む練習を積み重ね、長文読解につなげる。Q&Aを取り入れ、読み取りキーワードを探す練習もする。
- ・生徒の学習支援のため、必要に応じて、放課の後補習や再テストを行い、基礎力のアップに努める。

6 成果の確認

(1) 定期テストの結果、小テストの結果

(2) パフォーマンステストの結果、授業中の作品

(3) 授業中の取組、課題に対する取組、振り返りシートの取り組み

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 2年生

1 日常の学習状況について

- (1) 多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。コミュニケーション活動やパフォーマンステストにも積極性がみられる。
- (2) 文法の学習プリントや、ノート作成、家庭学習用ワークブック等も多くの生徒が取り組んでいる。一方、授業に集中できない、家庭での学習ができていない生徒もみられる。

2 定期考査を踏まえて

- (1) 基本的な単語や短い文を読んで理解することは、多くの生徒ができています。
- (2) 単語や文を自分で書くことについては、課題がみられる生徒が多い。
- (3) 長文問題の読解については、これから力を伸ばしていく必要がある。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能
 - ・基本的な単語や短い文を読んだり、聞き取ったりすることは、多くの生徒ができています。
 - ・単語や文を正しく書くことについては、まだ力が不足している。
- (2) 思考・判断・表現
 - ・あらかじめ与えられた内容についての発表は多くの生徒ができています。
 - ・長文読解力や即興的なやりとりができる力を今後伸ばしていく必要がある。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・多くの生徒がまじめに授業に取り組んでいるが、苦手な生徒へのサポートが必要である。
 - ・現在学習していることについては理解しようとするが、以前学習した内容が定着していないため、つまづいてしまうことが多い。
- (2) 指導面
 - ・4技能の力をバランスよく伸ばすための授業を確立する。
 - ・タブレットを授業で活用する。

5 授業改善の計画

- (1) 少人数授業を実施し、一人一人の学習状況を把握し、個に応じたアドバイスをする。
- (2) ノートやワークを定期的に点検し、授業や家庭学習への積極的な取り組みを促す。
- (3) 英語の力を高めるように、タブレットを効果的に使用させる。

6 計画の評価方法

- (1) 定期考査において、観点別学習状況の評価を行う。
- (2) 小テスト（リスニングテスト・筆記テスト・パフォーマンステスト等）を実施する。
- (3) 授業アンケートを実施する。

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

英語科 3年生

1 日常の学習状況について

- (1) 授業に向かう姿勢は概ね真面目で、ペア活動を行う際など、自ら発言をする生徒が多く、単語テスト、音読練習、コミュニケーション活動にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
- (2) ライティングやスピーチ、プレゼンテーションの授業では、伝えたい内容を書きたいという意欲が高く、積極的に取り組んでいる。

2 定期考査を踏まえて

- (1) 指示した範囲の文型についての問題は正答率が高くなっている。
- (2) 初めて読む英語長文については読解の速度に個人差があり、生徒の苦手意識も高い。
- (3) 簡単な英語を使って正しい文を作ることに課題がみられる。

3 学力に関する状況

- (1) 知識・技能
 - ・基本的な文を読む、書く、話す、また聞き取ることはだいたいできる。
- (2) 思考・判断・表現
 - ・新出表現や文法を用いたコミュニケーション活動は活発に行える。
 - ・話題を広げるために、既習表現・文型を加えることには個人差があり、以前できたことを難しいと感じている生徒もいる。
 - ・長めの英文から必要な情報を読み取ることに時間がかかり、目にした英語の量に初めからあきらめてしまう生徒もいる。
 - ・英語でのスピーチやプレゼンテーションには積極的に取り組んでいる。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ・与えられた課題についてはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるが、わからない、あるいは忘れてしまった語彙・表現をそのままにしている生徒も多い。
 - ・現在学習していることについてはよくできているが、反復練習が少なく忘れてしまうため、使用できる表現・語彙がなかなか増えていかない。
 - ・スピーチやプレゼンテーションの原稿作成時に、既習の表現を使わずに日本語の文法に英単語を当てはめようとする生徒がいる。あるいは、インターネットの翻訳機能を使ってそのまま書いてしまう生徒が、どうしてそうなるのかを自分で理解していない。
 - ・教科書以外の英文に触れる活動が少ない。
- (2) 指導面
 - ・4技能の活動をバランスよく配した授業の確立。
 - ・デジタル教科書以外のICTの活用。
 - ・個別指導の時間確保。

5 授業改善の計画

- (1) 学習面
 - ・家庭学習時にわからない語彙・語法について自ら調べる習慣をつけさせる。翌授業での発問や生徒からの質問を促すことで、自ら学ぶ意欲を喚起していく。

- ・三年間の既習事項を、ワークシートや問題集を用いて復習させていく他、授業の中でも繰り返し既習事項の確認をし、使える表現を増やしていく。
- ・英作文の機会を増やす。

(2) 指導面

- ・ペア・グループ・クラス全体でのコミュニケーション活動の行い方を定型化し、短時間で素早く、できるだけ多くの回数を実施していく。
- ・タブレット活用を有効活用した場面を作る。

6 計画の評価方法

- (1) 定期考査、観点別学習状況の評価の学期ごとの比較。
- (2) CAN-DO リストを考察したうえでの評価。
- (3) 学期終わりに授業に関するアンケートを実施し、生徒の達成感を考察。